

4 昔のコロンボ

(1) コロンボという名前

スリランカの南西海岸は、海岸線がまっすぐなところが多くなっていますが、コロンボの海岸線は海に少しつきでいて、港を造るのに都合よくできていました。

7世紀のころから、アラビア人はこの地に来て、宝石、象牙、シナモンなど買っていきました。アラビア人はここを「カランプー」と呼んでいましたが、シンハラ人は「コロンバ」と呼んでいました。「コロンバ」と呼ばれるようになった由来については、いろいろな説がありますが、市内の片隅に実のならない葉（シンハラ語でコラ）だけのマンゴー（シンハラ語でアンバ）の木が多くあったため、コラアンバがコロンボになまったという説がもっとも有力です。

コロンボと記されるようになったのは、オランダの植民地時代の18世紀以降で、それ以前は、コロンバ（K O L A M B A）、カランプー（C A L E N B O U）、カオ・ラン・プ（K A O ・ L A N ・ P U）などと記されていました。

(2) ポルトガルの植民地のころ

ポルトガル人がはじめてこの島にやってきたのは1505年と言われています。それから、コロンボに砦を築き、貿易を始めました。

このころのスリランカは、北のジャフナ王国、中央部のキャンディ王国、西のコーッテ王国に分かれていましたが、やがて、コーッテ王国とジャフナ王国はポルトガルに滅ぼされてしまいました。

ポルトガルは、^{ぶっきょう} 仏教を^{はげ} 激しく^{だんあつ} 弾圧し、キリスト教（ローマン・カトリック）を広めることに力をそそいできたので、西から南の海岸部には^{しんじや} 信者が多く出ました。

1655年に、オランダはコロンボを^せ 攻め、1657年にはポルトガルにとってかわりました。この^{せんそう} 戦争でポルトガルに^{かんけい} 関係のあるものはほとんど^{こわ} 壊されました。

* 今、はっきりした形で^{のこ} 残っているのはシルヴァ、フェルナンド、ドン・カローリスなどのポルトガル風の名前です。

こうして、約150年^{つづ} 続いたポルトガルの時代は終わりました。

(3) オランダの^{しよくみんち} 植民地のころ

オランダは、1720年にコーヒーを、1753年には^{さいばい} しょうの栽培を始めました。また、シナモンやたばこ、ココナッツの栽培、水田の開発にも力を入れました。



東インド会社のマーク（ゴール）

さらにニゴンボとコロンボの間に^{うんが} 運河をつくったり、フォート地区を^{せいび} 整備し、^{さいばんしょ} 裁判所などを^た 建てました。ペッターにあるオランダ時代^{はくぶつかん} 博物館は、このころの^{せいふ} 植民地政府の^{たても} 建物だったものです。

オランダもキリスト教（プロテスタント）を広めましたが、^{きょうせい} 強制はしませんでした。むしろ^{しえん} 仏教を支援しました。有名な「キャンディ・ペラヘラ祭」が^{ふっかつ} 復活したのも、この時代です。